

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

観音寺市立大野原中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全 校
3学級 92名	3学級 86名	3学級 87名	2学級 8名	11学級 273名

○教員数 24名

◆学校の特色

本校の学校教育目標は「個性豊かで、主体的に考え行動する生徒の育成」である。そして、これまでの学校づくりスローガン『「ときめき」にあふれ、個性が光り合う、あったかい学校づくり』から、さらなるステップアップとして、今年度より『「歓」『敢』『寛』にあふれる ともに今を輝く学校づくり』に変更した。つまり、「ときめき（歓）」「挑戦（敢）」「やすらぎ（寛）」のある教育活動を生み出す中で、生徒一人ひとりの個性や主体性を確実に伸ばそうとしている。

本校の生徒は、素直さのある前向きな生徒が多い。令和7年1月のアンケート調査では、「学ぶことが楽しいと感じる生徒」82.7%、「授業で話し合うことで、考えが広がったり深まったりする生徒」91.3%、「自分には良いところがあると思う生徒」90.5%、「学校生活を通して成長していると思う生徒」90.5%など、年々増加傾向にあり、どれも高い割合を示している。本校の特色ある教育活動である勤労生産学習（米やタマネギづくり）や自主的な合唱団練習にも積極的に参加している。保護者の方々も大変協力的である。

II 研究主題等

研究主題

「ときめき」のある授業づくり ～主体的に学ぶ生徒を育てる！～

◆研究主題設定の理由

本校の学校教育目標に迫るため、学習においては、何より学びに向かう意欲・関心を高めることが大切である。そして、その意欲・関心をエンジンにして、主体的に学習に取り組む態度を生徒一人ひとりに培いたい。そこで、研究主題を「『ときめき』のある授業づくり～主体的に学ぶ生徒を育てる！～」とした。これまで本校では、ICT機器の活用や学び合い等を通して、授業の中に感嘆符（！）や疑問符（？）が生まれるしかけを教師が意図的に仕組み、生徒が「なぜ？どうして？なるほど！できた！」といった「ときめき」を感じる授業づくりに取り組んできた。今後は、さらなるステップアップとして、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の学習展開にも挑戦し、生徒一人ひとりが主体的に学んでいく態度の育成を図りたい。

◆研究内容及び方法

①本校独自の『ときめき』につながる教える巧みな技」を基本に、心が動く授業づくりを進める。

課題設定を行う際のポイント、学び合いをさせる際のポイント等、この本校独自の指南書に書かれた指導のノウハウを参考にして心が動く授業づくりに励んでいく。

②「聴く」「反応する」を大切に、学び合う楽しさやつながる喜びを感じ取らせる。

教師や友達の話聴いた後の「反応する」ことに力を入れて取り組みたい。「聴く」「反応する」ことをすべての授業で指導と肯定的評価を重ねることで、授業に望ましい雰囲気（居心地のよい空間）が生まれるだけでなく、考えることを促進させたり、受け身だった姿勢から主体的な姿勢に変わり学び合い等が一層活性化されたりする。同時に学び合う楽しさや友達とのつながりを感じ取らせたい。

③探究的な学習等を通じ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。

生徒一人ひとりが主体的に学習を進められるよう、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図っていききたい。

「個別最適な学び」に向けては、「指導の個別化」と「学習の個性化」を図ること。「協働的な学び」に向けては、生徒同士で、あるいは地域の方々や専門家の方々と協働しながら課題を解決していくこと。これらを実現するためには、毎時間の実践は難しく、時間をかけて計画・準備した数時間あるいは十数時間の探究的な学習である必要がある。したがって、この意図的な学習展開を教員一人ひとりが年間2回程度（学期に1回程度）にしぼって単元（題材）のどこかに計画し実践を試みる。そして、生徒の学びの姿を中心に実践を「大中学びのときめきシート（仮称）」に整理することで、具体的に振り返り、その効果や課題を共有して次の取り組みに生かしたい。また、実践に当たっては、ICT機器の強みを生かして効果的に活用したい。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ・ 教科の枠を取り払った4グループの他教科研究部会（各5人程度）を編成し、校内研修等を通して、授業検討や校内公開授業、実践の振り返りを行う。
- ・ 実践したことを「大中学びのときめきシート（仮称）」に整理する。そして、校内研修等を通して「主体的に学習を進められているか」「学習を調整しながら課題解決に向かっているか」「他の生徒等と協働しながら学習を深められているか」といった生徒の姿を中心に授業を分析し、その成果や課題を見出し、教員間で共有する。
- ・ 「主体的に学ぶ姿勢」「学び合う楽しさ」等が生まれているかを、生徒による授業後の振り返り、定期的なアンケート等から分析する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ・ 年2回程度の研究授業を公開する。
- ・ 「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する上でのノウハウをまとめ、令和7年12月25日（木）に開催予定の「香川の教育づくり発表会」等において実践発表を行う。
- ・ 学校だよりや学年団通信等において、実践研究の様子や成果等を掲載し、保護者等に周知する。また、HPには実践研究の概要や学校だより等も掲載する。